

南多摩保健所管内 3 市合同感染症予防対策

(防護服着脱) 訓練について

南多摩保健所 ○矢島寛希 百瀬薫 本涼子 坂本珠江 稲葉洋美
松本加代 林久美子 舟木素子

1 はじめに

令和 2 年以降の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、行政機関の関係職員は予め防護服の着脱の手技を習得しておくことの必要性が再認識された。

保健所では、感染拡大時、医師、保健師等の職種に限らず、事務職、衛生監視、薬剤師など全職員による体制を構築し、管内の市や関係機関と連携して対応にあっている。そのため、平時から所内や市の職員が職種に限らず、感染症に関する知識や実践的な対応力を身に着けるための研修や訓練を受けることが健康危機発生時の備えとして重要である。

南多摩保健所では、以前より管内 3 市合同新型インフルエンザ等対策訓練として、防護服の着脱訓練や N95 マスクのフィットテストを実施していたが、コロナ禍の令和 2 年度以降は開催を見送っていた（令和 3 年度は南多摩保健所感染予防対策研修として規模を縮小して開催）。

令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症対応も踏まえ、所内の医師、保健師の専門職と事務職で連携して管内 3 市合同感染症予防対策（防護服着脱）訓練として実施したため、ここに報告する。

2 実施内容

1) 実施体制

企画段階から企画調整課（事務職 2 名、保健師 1 名）と保健対策課（保健師 2 名）で連携、協力し準備を進めた。企画書や

進行表等の素案作成や所内及び市への連絡調整等は企画調整課が担い、訓練の具体的内容、着脱の手技に係る資料作成等、専門性の高い内容は保健対策課が担った。

2) 訓練の目標

患者等に対応する職員が感染から身を守るために防護服を確実に着脱する意義を理解し、防護服着脱時に感染する可能性があることを認識すること、他の職員へ防護服着脱時のポイントを説明できるよう防護服の正しい着脱方法を身につけること、自分の顔に適合した N95 マスクの種類を確認することを目標とした。

3) 訓練の実施内容

① 講義「感染症の基礎知識等」

感染成立の三要素（病原体、感染経路、宿主側の感受性）や個人防護服について公衆衛生医師による講義を行い、演習の前に受講者の感染症の基礎知識等の定着を図った。

② 演習「N95 マスクフィットテスト」

N95 マスクについての説明、装着のデモンストレーションの後、マスクフィットテスト用の機器（2 台）によるフィットテストを実施した（N95 マスクは 7 種類用意）。テストはマスク装着後すぐの即時チェックと、即時チェック合格時には指定動作（前屈、首振り、発声）後チェックを行った。

フィットテストの待ち時間には、当日

実技で使用しないガウンタイプの防護服着脱の動画を放映した。

③ 演習「防護服着脱訓練」

保健対策課職員によるデモンストレーションの後、感染症対応を行う役割として着る人と、着脱の介助を行う役割として着る人の2人1組で役割交代して着脱訓練を実施した。防護服はワンピースタイプを使用した。

防護服を着衣後は、着脱会場から出て保健所内を歩き、防護服を着用した状態での動きにくさ、暑さを体感した。着脱会場に戻ってからの防護服の脱衣では、脱衣前に蛍光ローションを利用し、脱衣後に介助者含め、ブラックライトの照射を行うことで、脱衣による周囲への汚染のチェックを行った。

3 実施結果

1) 訓練参加者

	専門職 (保健師)	専門職 (保健師以外)	事務職	合計
市	3	1	3	7
保健所	5	1	3	9
合計	8	2	6	16

※上記に加え、看護学生（インターンシップ）2名が参加

2) アンケート結果

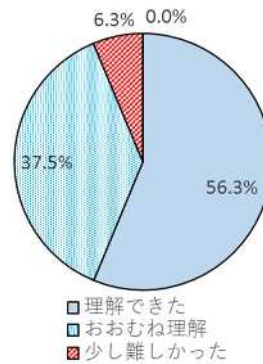
① 防護服着脱訓練の受講回数



② 講義について



③ 演習について



※受講が2回目の2名はいずれも理解できたと回答

④ 感想、意見等

【市・事務職】複数のマスク、テスト機器、ブラックライトなど、準備物品が充実していた。

【市・保健師】マスクをつけて歩いてみて、この状態で市民対応をするのはとても労力がいると感じた。

【保健所・事務職】実際に着脱を行うことで、完全に対策を行うことの難しさを知ることができた。リスクと戦いながら業務にあたる大変さを少しだが実感できた。

【保健所・保健師】動画の後、説明と実演があり、実践の流れがわかりやすかった。

4 まとめ

本訓練には、保健師以外の専門職、事務職の参加もあり、職種に限らず感染症に関する知識や実践的な対応力を身につける機会とすることができた。平常時に感染症対応に従事する機会のない事務職が感染症対応業務のことについて理解を深められたことは健康危機への備えにつながったと考えられる。

また、訓練実施に向けて保健所の事務職と専門職とが連携して取り組むことにより、日頃より感染症対応業務にあっている保健所の専門性を活かし、基本的な内容から具体的、実践的な内容まで盛り込むことができた。防護服着脱の手技等は繰り返し実施し、定着させることが重要であり、南多摩保健所では引き続き健康危機発生時の備えとなる訓練を実施していく。